『海の比喩』

基本の調性：ロ長調（H-Dur）

練習番号A～16小節まではロ長調の音階での推移

16s 男声とAltoの音程が交錯（Alto Ais-Gis-Fis、男声Fis-Gis-Ais）を感じて。

17s TenorのA音（Aisの♮）で短調の和音に一瞬なる。大切な音程。

18s 4拍目がdim7の和音＝ホラーの和音　１オクターブを均等に4分割した和音　不安感を表現したい

　　その次の19s 1拍目はCis-mollの悲劇的な感じ そして４拍目がまたまたdim7（前回より半音上）

　　　→よって、この部分は悲劇的な明るくない声質が必要と思う。

20s 1拍目でH-Durの主和音に帰結しますが、３拍目でまた短調に変化（ホ短調 Em）

　でも、21sでまたH-Durの主和音に戻り、そのまま22sの終止形に収まる。

23～25s H-Durの音階で進行するが、26s１拍目のAltoのG音（Gis♮）でホ短調を予感させ、4拍目でSopranoのCisでdim7のような和音を経過音として、27sでH-Durの主和音に戻る。

ところが、28sの１拍目でBassがGis音、AltoがDis音になるためGis-mollとなり、28sはまた短調。

でも29sは長調に戻る。ただし、Fis-DuのV和音から30sでFis-Dur主和音で解決。

29sの４拍目から次のフレーズになるが、ここは主調のH-Dur。

33s 1拍目でTenorのA音（Ais♮）で短調を予感させ、２拍目でAltoのFis音でFis-mollを確定。BassのDis音は6thの関係。

34s 一旦Gis-Durになるが、４拍目でdim7の和音（18s の4拍目と同じ）。

35s～38sは19s～22sと同じ進行。

39sでEs-Dur（変ホ長調）に完全転調。Bassの39sのH音（前から半音下）が肝、これで性格が決まる。

42sまではEs-Durの中での動き。

44s 1､2拍目のBassのDis音で短調になるが、３拍目～44sでは長調へ。

しかし、45sから短調の連続。45s Fm→Cm→47s dim7（悲劇的）→48s Fm→49s dim7→50s Gm→51～52s 2度ぶつかり。これは歌詞の世界感を表している（「水平線を目指して、大しけと凪に弄ばされながら」）

またここで転調、G-Dur（ト長調）。テンポもpoco meno mossoで穏やかになる。

基本のG-Durの展開が続き、65sで最後の転調、C-Durへ　（Codaの役目）

70s～83sはピアノ伴奏が単純（81～83sは分散和音）になり、その和音を聞けば、どう歌えばいいかわかるはず。単純な和音進行。

84s ここからはAltoが主役。　Sopranoはobrigato、Pでdolce & espressivo 甘く表情豊かに＝難しい。

87s BassのAis音で憂いを付与、この音は柔らかな表情で（creac.後であるが）。

89s 3拍目で、ﾒﾛﾃﾞｨｰはSopranoへ。Altoはハーモニー作りへ。特に90sのFis音は第3音で和音の特徴を決める音なので、他のパートの真ん中にきちんと入ること。

94s で短調 Gm6→95s A-Dur（長調でも悲しい情緒も含む）でしかも7th。そして、４拍目がdim7（悲劇的）。

　つまり、その前の和音進行はこのdim7に導く過程であり、dim7を予感させるように歌う必要がある。

その後は、C-Durを基本に、盛り上げるための和音進行（Fm、G）。

特に臨時記号の♭があるパートの音程が大事

『あなたのことを』

主調はD-Dur。この調性の中で和音進行していくが、一部、色を変える部分あり。

　5s 1拍目 H-mollの雰囲気（平行調）。

　8s 1拍目は全員A音、そこから3拍目のH-mollの和音に向けて動く、特にBassの動きが性格を決める。

　14s 4拍目のBassのAis音でdim7を形成。ここもBassの音程が命。低くても上ずっても不可。

　16s 3拍目のAlro Gis(G♯)、Bass F♮に変化することでdim7を形成。この２つの音程も命。

19sからはd-moll。(D-Durの同主調（根音が同じ短調）)

　22s 4拍目、24s 2拍目のBass Cis音の音程が大切。

　27～29sは１拍毎に動きがあり、最後、30sはAlto下のE音でC7thで次のF-Durを予感させる。

　　この間のデュナーミクをしっかり表現したい。特に24sのsub.Pはmfからのcreac.後だからﾃｸﾆｯｸ必要。

　　　（特にSoprano上、高音だけど）

31s～34s Alto下の音程が大切。和音の性格を決める。特に、34s 4拍目のCis音。すべてピアノ伴奏にある。

36s 3拍目 Alto上のAs音とTenorのH音（B♮）でdim7を形成、但し、構成音から比較的悲劇性は低い。

そして37sはGm7。38s Alto下のE音は39sのA-Dur主和音（長調だが悲しげ）を導入する大事な音。

そしてこれが次の40sのD-Dur（全員入りはD音）につながるようにする。

40s D-Durに転調(戻る)。

Bassの音程は基本ピアノの左手と一緒。よくピアノの左手を聞いて。

44s 3拍目のF音はBassのGis音とともに大切。Altoもピアノの右手にある。

45s 1拍目でAm6 Bass Fis音が大切。3拍目でD-mollに、BassのF音が決め手、大切。

46s Gm6=DmのⅣ6の和音、BassのE音が決め手。

47s 1拍目 Gm、2拍目でB（B-Durの主和音）を匂わせて、4拍目裏でB。

48sのAltoは、その前のTenorと同じ音型だが、より強い表現が必要（ｱｸｾﾝﾄ付き＋fからのcreac.）

　Tenorよりも声量・広がりを大きくすること、でも吠えてはダメ。怒ってもダメ、恫喝もダメ。

　　特に「歩こう」の「る」のu母音を口蓋垂から軟口蓋→硬口蓋の上→鼻腔→鼻骨を一直線に

48sの４拍目はD主和音→49sの１拍目Cis（和音として半音下がる）→2拍目 dim7。

50s～53sは最後D主和音に向かって、難しい和音進行。

53s 合唱は第３音のないD（空虚和音）だが、ピアノにFis音あるため、D-Dur。明るめの発声で。